

水コンサルタントになろう！

対外活動委員会／下水道展小委員会／委員長
(オリジナル設株式会社／DX 推進部次長)

平島昌雄



1. はじめに

夏の恒例イベントとなった下水道展も36回目を迎え、今回は2年ぶりに東京都の東京ビッグサイトで開催されました。

水コン協では、7月30日～8月2日の全日程で「水コン協カフェ'24東京」と題した展示ブースを出展し、イベントを開催しました。

本稿では、出展準備から当日の実施状況について報告します。

2. 出展目的と企画内容

(1) 出展目的

下水道展への出展は、第三期中期行動計画の基本方針「人材確保支援のためのイメージアップ活動」の一環として、学生や一般来場者に向けて水コンサルタントや下水道のことを知ってもらい、身近に感じてもらうことで水コン協及び会員企業のイメージアップを図ることを目的としました。

(2) 展示ブース企画の概要

展示ブースのデザインとイベント内容については、下水道展小委員会で検討しました。

①学生就活イベント

夏季休暇中の学生に、若手技術者が水コンサルタントという職業と働き方をプレゼンテーションし、職業としての魅力等をアピールするイベントです。'19横浜開催からコンセプトとキャッチフレーズを継続し実施しています。

- ・コンセプト：水コンサルタントという職業の魅力を伝える
- ・キャッチフレーズ：水コンサルタントになろう！

②クイズコーナー

下水道展に訪問される親子連れや一般の方にも下水道や水コンサルタントという職業に興味を持ってもらえるようにクイズコーナーを設けました。小さなお子さんか

ら年配の方まで幅広い世代に楽しんで頂けるよう、下水道や水にちなんだクイズと景品を用意しました。

③展示ブースの仕様

展示ブースは、昨年の'23札幌開催で好評を頂いたシンプルかつ開放感があり気軽に入れるようなオープンカフェのイメージを継承しました。広さ2小間（幅3.0m×長6.0m）と小スペースな中で2つのイベントを同時に開催できるよう人の動線に配慮し、中央の飾り棚を取り除くことで開放的なブースになりました。来場客への配布用飲料をストックする冷蔵庫やイベント用の各種機器も配置しました。

今回も'22東京開催から継続している「水と人、次世代へつなげる」というメッセージを掲げました。このメッセージには、「上流から下流に流れる水のように、下水道事業に関わってくれる人を後世につなげていく」といったメッセージも込められています。



図ー1 展示ブースのイメージ

3. 運営体制と準備活動

(1) 運営体制

展示ブースの企画、準備、運営は、各委員で役割分担しました。

- ・関東支部 下水道展運営委員会①（以下、運営委員会①）：主に若手の技術者、学生イベント企画の準備、運営
- ・関東支部 下水道展運営委員会②（以下、運営委員会②）

②)：ノベルティとクイズイベントの準備、運営、来場者の受付

- ・本部対外活動委員会 下水道展小委員会（以下、小委員会）：出展企画、運営委員会①、②のサポート、運営のサポート、集客活動
- ・本部対外活動委員長：出展企画へのアドバイス、運営のサポート、集客活動
- ・本部事務局：契約等の事務処理、各委員会の開催、運営のサポート

(2) 出展準備

小委員会の任期は2年間のため、前回'23札幌開催の準備段階で招集された小委員が引き続き担当します。

2024年1月に第1回小委員会を開催し、イベント開催方針に変更はなく、5月に運営委員会を公募し準備を進めることを決定しました。

4月に第2回小委員会を開催し、全体スケジュールの調整、各委員の役割分担について話し合いました。

その後、運営委員会の公募を経て、5月に第1回運営委員会を開催し、いよいよ本格的に出展準備を開始しました。

運営委員会は、本部会議室での現地集合とリモート会議を併用して開催しました。

<下水道展'24東京の委員会活動>

- 1月23日 小委員会（1）
- 4月10日 小委員会（2）
- 5月22日 小委員会（3）、運営委員会（1）
- 6月19日 小委員会（4）、運営委員会（2）
- 7月10日 小委員会（5）、運営委員会（3）
- 7月24日 小委員会（6）、運営委員会（4）

(3) 集客活動

水コン協カフェの告知にはSNSを活用しました。水コン協のX（旧ツイッター）の投稿で下水道展と水コン協カフェのイベントを紹介し、スマートフォンでも見やすいサイズのチラシも掲載しました。

学生の集客では、水コン協ホームページに開催案内とイベント参加者用エントリーフォームを掲載しました。コロナ禍前は、大学へ訪問し先生方にお会いして学生への呼びかけを依頼していましたが、コロナ禍では面談が難しくなり、就職担当窓口でメールでイベント案内をPRしていました。今回は'19横浜開催から積極的に学生へ参加させてくださっている大学に訪問させて頂き、学生へ参加の呼びかけをして頂きました。しかし、こちらの準備不足で訪問時期が7月になってしまい、学生への周知期間が不足してしまったことで、事前の申込み者数が例年より少ないまま下水道展を迎えることになりました。

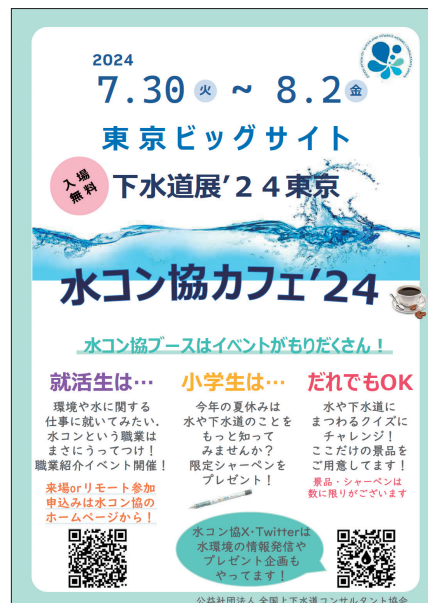


図-2 SNS用イベント案内チラシ



図-3 配布用イベント案内チラシ

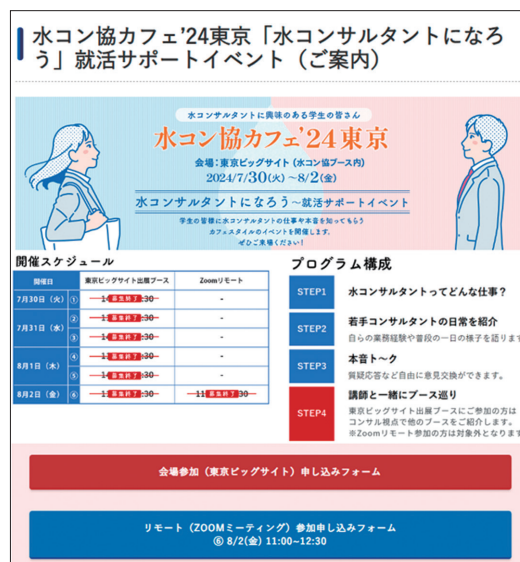


図-4 学生就活イベント申込みサイト（抜粋）

4. 展示ブースでの訪問客対応

展示ブースでは、訪問客にパンフレットや協会誌等の各種資料を配布し、水コン協について説明を行いました。

19横浜開催から展示していた壁掛LEDパネルは、閲覧スペースの都合もあり、今回は展示を断念しました。

5. 展示ブースの運営状況

(1) 展示ブースでの役割分担

下水道展当日は、事前に決めた日毎の委員が展示ブースを運営しました。

運営委員会①による学生イベント運営、運営委員会②によるクイズコーナーの運営を小委員会、対外活動委員長、事務局の全員でサポートしました。

(2) 来場者数

2年ぶりの東京開催となった今回は、下水道展全体の来場者数は49,031人、水コン協の展示ブースには1,009人(学生イベント33人、クイズコーナー743人)が来訪しました。23札幌開催との比較では、下水道展全体で約1.6倍、水コン協の展示ブースではほぼ同数でした。



写真-1 出展ブースの全景



写真-2 ブース巡り準備中の様子

(3) 学生向けイベントの様子

学生向けイベントでは、事前申込みをしてくれた学生18名と下水道展当日に飛び入り参加してくれた15名、計33名が訪れました。

最終日は、リモート配信を実施しました。事前に3名の学生が申込んでくれましたが、こちらの手違いで2名にZoom案内メールを送付できておらず、参加頂くことができませんでした。大変ご迷惑をおかけしました。

「若手技術者による仕事紹介」では、運営委員会でグループ毎に作成した説明スライドを使い、水コンサルタントという仕事の内容や魅力についてプレゼンテーションを行いました。

下水道事業全般や水コン協の役割、水コンサルタントが下水道事業の一端を担っていることを知ってもらい、若手技術者が経験した業務を例に現場調査、検討、客先協議といった一つ一つの仕事を詳しく説明しました。

また、普段の一日の過ごし方や一年間のタイムテーブル、出張先での楽しみ、そして顧客の課題をクリアするために一生懸命に最適解を考え、提案が採用されたときの達成感等について語り、学生自身に自分が働いている姿をイメージしてもらえるように工夫しながら説明しました。学生の皆さんは、真剣な表情で話に聞き入っていました。

「本音トーク」では、働き出してワークライフバランス



写真-3 学生に説明する若手技術者

がどんな感じになるのか?といった働き方や社会人になっての日々の過ごし方についての質問が相次ぎました。

「下水道展ブース巡り」では、他企業のブースでスタッフの方から製品について詳しい説明を受け、下水道事業は様々な分野の多くの企業や団体の活動により支えられていることを実感できたようでした。

ブース巡り後のアンケート記入の時間には、「本音トーク」では時間が足りずに続きを聞きたいという学生が多く、時間の許す限り若手技術者が社会人の先輩として真摯に対応していました。

下水道展での学生向けイベントは、運営委員会①の若手技術者にとっては準備段階から他社の技術者たちと協力してイベントを運営するという普段は味わえない貴重な体験ができたと思います。

(4) クイズコーナーの様子

展示ブースに独自のクイズコーナーを設け、小さなお子さんから年配の方まで幅広い世代に楽しんで頂けるよう、下水道や水にちなんだクイズと景品を用意しました。クイズの内容は、運営委員会②にアイデアを出してもらい、海外の話題や環境問題を交えた多様なクイズを作成しました。幅広い世代にも難易度がちょうど良く楽しんで頂けたようで、「クイズを持ち帰りたい」と反響を頂きました。



写真-4 クイズコーナーでの一般来場者

(5) 景品・ノベルティ

展示ブースでクイズを楽しんで頂いた訪問客の方々には、トイレ消しゴムや水コン協特注のお菓子をお配りしました。お菓子は、運営委員会②に包装をデザインしてもらい、菓子メーカーに「水コン協限定」バージョンを特注で製作してもらいました。



写真-5 景品・ノベルティも大人気

6. 併催行事

水コン協は、8月1日(木) 13:30~15:30にTFT(東京ファッションタウン)ビル研修室904にて「ウォーターPPPの導入に向けて」～包括民間委託の現状と今後の官民連携～と題してセミナー講演を行いました。

7. 開催後のレビュー

(1) 参加学生へのアンケート

展示ブースに来場して参加してくれた学生の皆さんには、イベント後にアンケートを提出してもらいました。水コン協カフェでの就活イベントは、「良い」「大変良い」という回答を多く頂きました。

また、アンケートに寄せられたコメントを一部掲載します。本イベントのコンセプト「水コンサルタントという職業の魅力を伝える」を十分に果たせたと思われます。

- ・笑顔で楽しく話してくださり雰囲気も良く、説明は初心者でも分かりやすかったです。
- ・出張先では仕事を済ませてオフも楽しまれているのが分かり良かったです。
- ・社会人としての1日の過ごし方がイメージできました。
- ・1年間のスケジュールに忙しさメーターが付いていて分かりやすかったです。
- ・災害発生した際の水コンサルタントの仕事内容が分かりました。
- ・水コンサルタントについて多くを学ぶことができました。就職の際にも視野に入れたと思います。

(2) 運営委員の声

下水道展終了から約2ヶ月が経った10月に最後の運営委員会を開催し、反省会を行いました。久しぶりに集まった旧友の顔を懐かしみながら、下水道展のレビューを



写真－6 初日の委員会メンバー



写真－7 二日目の委員会メンバー



写真－8 三日目の委員会メンバー



写真－9 最終日の委員会メンバー

話し合いました。

運営委員会①

- ・本番は練習と雰囲気が違い少し緊張しましたが、しっかり練習できていたのでもう説明できたと思います。
- ・資料をもう少し分かりやすくボリュームを減らし、本音トークの時間を増やせると良かったです。

- ・学生の皆さんが熱心に聞いてくれて、質問の中には水処理についてなどレベルが高いものもあり、こちらも真剣に考えて答えるのが大変な場面がありました。

運営委員会②

- ・クイズコーナーでは、多くの訪問客の皆さんがクイズを楽しんでくれて、ノベルティも喜んで受け取ってくださって良かったです。
- ・クイズやノベルティの準備には時間がかかるため、担当者をしっかり決めて役割分担ができると良かったです。

8. おわりに

今回は、'19横浜開催からイベントの企画・運営で積み重ねてきた経験が活き、全体的にスムーズに委員会活動を進めることができたと思います。

運営委員会を振り返ってみると、5月に初顔合わせをした若手技術者たちも回を重ねるごとに自発的に発言し議論を重ね、「どうすれば学生へ水コンサルタントという職業の魅力を伝えられるか?」「学生が分かりやすいようにスライドをもっと見やすくしよう」といった活発な意見交換がなされるようになり、親交が深まっているように見えました。

下水道展本番では、多くの就活に熱心な学生がイベントに参加してくれました。イベント中は、終始和やかな雰囲気の中で若手技術者が自分の仕事観や学生からの質問へ自らの言葉で語ってくれ、その熱意は学生にも十分に伝わったように見えました。

また、クイズコーナーでは、4日間で700名を超える来訪がありました。SNSでの告知が影響したのか予想を上回る反響があり、準備していた景品が足りないといった嬉しい誤算もありました。

2024年5月に運営委員会が発足して約2ヶ月半と短い期間ではありましたが、イベントの準備から本番の運営という初めての経験を通して、何かしらの手応えを感じて成長してくれたと思います。

運営委員会、小委員会、対外活動委員長、事務局のスタッフが丸となってブース運営を楽しみ、4日間と短い期間ではありましたが、若手を中心にベテランがサポートし、水コン協ファミリーとして世代を超えて絆が深まったとても貴重なイベントになりました。

最後に、本イベントの趣旨に賛同し多くの学生を快く送り出して頂いた学校関係者の皆様、イベントに参加して頂いた学生の皆様、クイズコーナーで盛り上がってくれた子供たちやご家族の皆様、ご来場頂いた皆様、開催にあたりご協力頂いた出展者の皆様、そして運営委員会をはじめ関係者の皆様に、誌面をお借りしまして深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました。